

いわき農林水産ニュース

平成30年1月号(第155号) 発行 1月25日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



ランキュラスは、花卉の光沢と
柔らかさが魅力の初春の花です

目次

- ・福島県農林水産部長より新年の御挨拶……………p.1
- ・いわき市 村上央農林水産部長インタビュー……………p.2
- ・第1回高校生レシビコンテストグランプリ決定……………p.4
〔管内の各種取組の実績(12~1月)〕……………p.6~
- ・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー……………p.9
〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.11
- ・第47回全国林業後継者大会一般参加者募集……………p.12
- ・イベント情報……………p.13
- ・6次化商品紹介……………p.13
- ・GAP コーナー……………p.14
- ・公式 SNS「いわきフラキビタン」について……………p.15

新春を迎えて

福島県農林水産部長より新年の御挨拶

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、富岡町や飯舘村で本格的な米づくりが7年ぶりに再開されるとともに、沿岸漁業において、海苔養殖や魚市場の「セリ」が再開されるなど、原発事故からの復興に向けた「歩み」が確実に進んだ一年でありました。

また、将来の担い手として期待される新規就農者が平成27年から3年連続で200名を超え、桃や梨など農産物の輸出量が過去最高の実績となるなど、本県農業の未来に明るい希望を実感しております。

そこで、復興・創生期間の折り返しとなる平成30年度は、これまでの成果と復興・創生期間後のステージの両方を見据えながら、『流通・販売の強化』、『生産活動の拡大』、『生産基盤の整備』の3本を柱として、本県農林水産業の再生と成長産業化に向けた取組をしっかりと進めていく考えです。

いわき地方においては、昨年5月の「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」以降、「いわき地方GAP推進協議会」が中心となり、消費者や流通業者の皆さんの「確かな信頼」の確保に向け、GAP認証取得の推進に積極的に取り組んでいただいているところであります。

また、県内の主要な日本梨の産地としてベトナムへの輸出に取り組まれ、味や品質などについて現地で高く評価されるなど、「福島県産梨」のPRに多大な成果を上げていただいております。

県といたしましては、引き続き、安全・安心の確保や産地ブランド力の強化、輸出拡大に向けた取組をしっかりと支援してまいります。

さらに、本年6月10日には、南相馬市で「第69回全国植樹祭」が、前日の9日には、いわき市を会場に「第47回全国林業後継者大会」が開催されます。「林業後継者大会」は本県が発祥であり、全国各県を巡りいわき市において再び後継者の育成・確保に向けた本大会が開催されることは、非常に意義深いものと捉えております。開催準備に万全を期すとともに、森林林業の成長産業化に向けしっかりと取り組んでまいりますので、皆様の変わらぬ御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。



福島県農林水産部
佐竹浩部長

新春インタビュー

いわき市 村上央農林水産部長に聞く

～いわき市の農林水産業復興の取組について～

インタビュアー：あけましておめでとうございます。2018 年を迎え、今年3月で東日本大震災から7年経過となりますが、市の農林水産業の復興への取組を中心に、インタビューさせていただきたいと思います。村上部長、よろしくお願いいたします。

質問1 いわき市の農林水産業の特徴（特産品等）を教えてください。

村上部長：東北地方の最南端に位置し、太平洋に面したいわき市は、夏涼しくて冬暖かく、日照時間も長い等、大変気候に恵まれています。また、福島県の沖合は親潮と黒潮が交わり、プランクトンが集まる「潮目の海」であり、好漁場として知られています。

そんないわき市は、美味しい農林水産物が豊富です。「ブランド作日」のいちご、トマト、なし、ねぎの4作目をはじめ、とっくりいもやいちじく、ブルーベリーなど24作目を振興作目として指定しています。また、シクラメン等の花き、水稻もさかんです。



いわき市農林水産部
村上央部長

水産物としては、カツオやサンマ等の回遊性の魚から、アンコウ、ヒラメ等の沿岸性の魚まで、四季を通して多くの魚が水揚げされ、いわき市で水揚げされた水産物は震災前から「常磐もの」として高く評価されていました。

質問2 震災からの復興をはじめとしたいわき市独自の取組を教えてください。

村上部長：震災以降、福島第一原子力発電所事故の影響で、残念ながら福島県産の農産物は、取引先や消費者から敬遠される事態となりました。また、消費者自身に安全・安心を判断していただくための「ありのままの」情報を発信することが必要となり、「いわき見える化プロジェクト」を立ち上げました。平成24年度からは、情報発信強化プロジェクトチーム「見せる課」を設置、平成28年度には「魅せる課」と名称変更し、いわき市農林水産業の風評払拭、そして魅力発信に努めております。

また、平成27年には新たに地域ブランドとして「常磐もの」を立ち上げ、県内はもちろん、首都圏に向けても各種プロモーション事業を展開しております。PR活動としては、JR東日本の山手線や京浜東北線等で実施している「トレインチャンネル」を活用したり、地方局「東京 MX テレビ」で30秒版のコマーシャルを流していただいたりと、首都圏への販路拡大のため、PR活動に取り組んでいます。

さらに、「農福商工連携事業（農業・福祉・商工業）」を立ち上げ、園芸特産物の振興ということで、「いわきワイン」をつくっている NPO 法人 みどりの杜福祉会に市の未利用地を貸し出しています。これまでも、同法人が市内各地でブドウの栽培を行い、ワインを生産していましたが、未利用地の活用によって、さらに1万本程のワインを増産できるぶどう畑と販売施設の整備について、6次産業化の推進を目的に、国の支援により行われようとしています。

質問3 2018年を迎えて、いわき市としてどのようなことに取り組めますか。

村上部長：今年、本格的に取り組んでいくものとしましては、木質バイオマスエネルギーの利活用の検討や、昨年10月に東京都港区と、港区内の述べ床面積5千㎡以上の建築物に市の間伐材を積極的に使用していただく協定を締結したことから、この協定に基づく林業のより一層の振興に努めます。また、今年6月には、全国植樹祭の前日イベントである全国林業後継者大会が開催されます。県と連携しながら、充実した大会となるよう全力で準備を進めているところです。

そして、食材の安全性や作業者の労働安全確保に関する認証制度でありますGAPいわゆる農業生産工程管理認証についてですが、本市では、5事業者が第三者認証GAPを取得している状況です。海外輸出の促進や2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに農産物や水産物を提供できる可能性もありますので、市といたしましても、福島県や農業協同組合さらには、県漁連などの農業関係機関・団体と連携を図りながらGAP等の取得に向けた支援を行ってまいりたいと考えています。

しかしながら、2018年の重点的な取組として一番に挙げられるのは、これまでの取組を継続し、さらに充実させることだと思っています。最も大切な消費者の皆さんからの信頼を得るためには、継続した発信活動が必要だからです。特に、先に述べたように首都圏へのPR活動に力を入れているので、今年は地域外への発信にますます力を注ぎたいと考えています。



インタビュアー（左）
当所地域農林企画課 国分

インタビュアー：ありがとうございました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

face book「いわき市魅せる課」

いわき市がスタートさせた風評被害対策プロジェクト「いわき見える化プロジェクト」の一環として、「魅せる課」の職員が、復興に向けて奮闘する農林漁業者・観光業者の姿や、モニタリング検査の様子、農林水産物や観光情報、復興に向けた本紙の取組などの情報を、親しみやすい形で継続的に伝えていきます。

→<https://www.facebook.com/misemasuiwaki>



いわき中央卸売市場・公設地方卸売市場の初市式

〔1月5日（金）〕

いわき中央卸売市場と公設地方卸売市場の初市式が開催されました。初市式は、水産部、青果部、花卉部、関連事業者など4部毎に行われ、開設者の清水敏男市長挨拶、菅波健いわき市議会議長祝辞の後、市場の発展を祈念し、関係者による三本締めで今年の初競りを祝いました。会場では、いわき市農業生産振



（花き初競りの様子）

興協議会がJA福島さくらネギ部会の協力で、いわき市産ねぎを使った温かいねぎ汁を振る舞い、参加者を暖めてくれました。

また、青果部では、投げ餅が行われた後、威勢のよいかけ声で野菜や果物等の宝船が競りにかけられ、初競りが活気強く行われました。

（農業振興普及部）



（青果部関係者による三本締め）

第1回高校生レシピコンテスト（テーマ：いわき産トマト）グランプリ決定 いわきの高校生が情熱あふれる料理・スイーツを作る！

〔1月21日（日）〕

当所主催のレシピコンテスト2次審査を、常磐共同ガス(株)キッチンスタジオ「ステラ」(常磐湯本町)で開催しました。当コンテストは、いわきの特産品の魅力を若い世代に伝え、若いアイディアでさらなる魅力を発信することを目的に実施しており、第1回となる今回はいわき市内での生産が拡大しているトマトをテーマとしました。コンテストには、市内8高校から料理・スイーツ部門合わせて57作品の応募がありましたが、1次審査(書類審査)で各部門3作品を選抜し、6組の高校生による調理・実食審査を行いました。



主催者あいさつ
当農林事務所 森口所長

当日は、参加高校生とその家族、高校家庭科の先生方が開始前から集まり、会場は活気にあふれました。開会式には来賓として清水いわき市長が訪れ、参加高校生を激励していただきました。



高校生に激励の言葉をかける
清水いわき市長

開会式終了後、「ステラ」内には、参加高校生、審査員とスタッフのみとなり、家族や先生方にガラス越しに見守られながら、高校生は緊張しながらもデコレーションなどの時間も配慮しながら一所懸命に調理していました。審査員へ料理の自己PRする姿に純粋な情熱を感じました。その熱意が伝わったのか、審査員の表情からも本気が感じられました。

なお、審査結果は次のとおりとなりました。

料理部門

グランプリ

「トマトとマッシュルームの炒めもの」



磐城第一高等学校 2年 入澤 歩美さん

特別賞（ワンダーファーム賞）

「トマトのイタリアン風カップパスタ」

いわき総合高等学校 2年 根本 里音さん
齋藤 真美さん

特別賞（いわきFCパーク賞）

「トマト鯛めし（南予地方の鯛めし）」

磐城農業高等学校 2年 北郷 涼夏さん
伊藤 晴香さん
小林 りおさん

スイーツ部門

グランプリ

「カラフルトマトのレアチーズ」



勿来高等学校 2年 北郷 麗奈さん
宮川 流果さん

特別賞（ワンダーファーム賞）

「Roll cake with Jewelry Tomatoes」

湯本高等学校 2年 横山 亜優奈さん
緑川 真果さん
小林 風優さん

特別賞（いわきFCパーク賞）

「フラガール」

湯本高等学校 1年 渋谷 菜々子さん
茂木 愛実さん

表彰式では、賞状を授与した他、副賞として「いわき農林水産業の特産品詰合せ3万円分」、「ワンダーファームのトマト大箱2箱」、「いわきFCプレミアグッズ」等が贈られましたが、結果発表時には、高校生だけでなくギャラリー側にもどよめきが起こり、大人の方々からの関心の高さも感じられました。

審査員講評もいただき、「レベルが高く僅差の中で差を付けるのが大変だった。」「調理する手際も慣れており良かった。」

「若い人たちの発想の豊かさを感じた。」「今でもウチの調理場で働いて欲しいくらい。」など素晴らしい評価をいただきました。表彰式の最後には、常磐共同ガス(株)より協賛として、参加した高校生全員へスパリゾートハワイアンズのペアチケットのプレゼントもあり、会場全員が笑顔になったところで、マスコミ等の記念撮影、インタビューが実施され終了しました。



(調理審査の様子)

審査員の皆さん

株式会社ワンダーファーム	代表取締役	元木 寛 氏
	森のキッチン チーフシェフ	渡邊 和広 氏
	森のキッチン チーフパティシエ	半谷 克敏 氏
いわきFCパーク	館長	鈴木 直樹 氏
	RED&BLUE CAFÉ 店長	山崎 敦史 氏
くさの根株式会社	代表取締役	新谷 尚美 氏
いわき農林事務所	所長	森口 康弘

最後に、短期間でも様々な工夫を練って作品を応募いただいた市内高校生・関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

(企画部)



(表彰式後に笑顔で記念撮影)



(ワンダーファーム賞 作品)



(いわきFCパーク賞 作品)



テレビで見て！ 来て・味わって！ レシピコンテスト

期間限定

テレビ放送されます！

このレシピコンテスト実食審査の様子がテレビ放送されます！

- 日時：2月2日(金) 19:56~20:00
- 番組：KFB(福島放送)
県政広報テレビ番組
『Let's チャレンジ ふくしま』

※再放送：2月3日(土) 5:35~

グランプリ作品をお召し上がりください！

グランプリ作品2点が、期間限定で次のレストラン・カフェのメニューに加わります。ご賞味ください！

- 期間：2月10日(土)~18日(日)
- 店舗：①ワンダーファーム「森のキッチン」
(市内四倉町中島字広町1)
②いわきFCパーク「RED&BLUE CAFE」
(市内常磐上湯長谷町釜ノ前1-1)

株式会社平木材市場の初市開催！

〔1月11日(木)〕

いわき市内郷綴町にある(株)平木材市場において、買方や荷主など林業・木材関係者約100名が集まり平成30年「初市」が開催されました。式典では、平木材市場齋藤公男社長ほかによる新春の挨拶の後、参加者全員で乾杯が行われ、今後の平木材市場の発展及び取引の活性化を祈念しました。

市場内には、年末年始にかけて県内を中心に集められた素材約3,500m³と製材品約1,500m³が所狭しと並べられ、式典後、今年最初の競りが開催されました。

良質材が出てくる冬の時期ということもあり、いわき市内をはじめ県内外から集まった買方は、熱心に競りに参加していました。素材価格は、昨年秋から好調のため、今後の山側からの旺盛な出材につながることを期待されます。



(素材の競りの様子)

(森林林業部)

いわきコメの会が食味官能試験を開催

〔12月27日(水)〕

いわきコメの会が食味官能試験を開催しました。会員が生産した5品種計6点の米を、同一条件で炊きあげ、基準品との比較による食味評価を行いました。

評価は、香り、外観、味、食感の観点から実施し、試験の結果、青木薫氏(三和町)のコシヒカリが最高得点となり、次点は若松郁氏(渡辺町)のミルキークイーンでした。各会員は、試験の結果をもとに、来年からの米づくりに向け、品種選定や施肥管理について活発に意見交換を行っていました。



(食味試験の様子)

(農業振興普及部)

東京国際フォーラムで「FUKU FES 2017」に参加

〔12月23日(土・祝)〕

東京国際フォーラムで開催された県主催の「FUKU FES2017～ふくしま大交流フェスタ」にブース出展し、いわき市の観光・物産のPRを行いました。

いわき市観光パンフレットを配布したほか、かまぼこなどの「常磐もの」やサンシャイントマトを販売し、いわき製品のPRも行いました。また、アンケートに回答していただいた約150名に、常磐ものの「カツオのフレーク缶詰」をプレゼントしたほか、移住相談や「遠野和紙体験」なども実施しました。

イベントを通して、いわき市の魅力を首都圏在住者等に対してPRすることができました。

(いわき地方振興局)



(いわき市産品は完売しました！)

りんどう生産者の個別面談

〔12月21・22日(木・金)〕

りんどうの収穫が本格化する次年度に向けて、計画的な需要期出荷を目指すため、川前りんどう生産部会員を対象に、個別面談を行いました。当所職員が直接生産者の自宅を訪問し、今年度の生産活動に関する反省点や次年度の目標、取組事項などを聞きとるとともに、栽培管理上の改善点や、技術導入に関する提案と指導を行いました。



(面談の様子)

生産者からは、「いやぁ～慣れない作業で大変だった」という話の反面、「次の収穫はもっと販売本数を増やして儲けるぞ」という意気込みを伺うことができました。次年度の現地指導等の活動も気を引き締めて全力でサポートしてまいります。

(農業振興普及部)

水産エコラベル現地審査

〔12月6・7日(水・木)〕

本県水産物の「水産資源管理の推進」「風評払拭・販売拡大」を目的に、今年度より県では水産エコラベル認証の取得を支援しています。水産エコラベル認証は、公正な第三者である認証機関が「持続可能で適切に資源が管理された漁業」を認証するもので、国内版のMELと国際認証のMSCがあり、生産段階認証(漁業者)、流通加工段階認証(主に流通加工業)、養殖業の認証に分けられます。



(現地審査の様子)

このうち、福島県漁連が申請したMEL(生産段階認証)現地審査が12月6日と7日に行われました。現地審査は、MELの審査員が3つの審査要件「管理体制に関する要件」、「対象資源に関する要件」、「生態系への配慮」を踏まえたチェックシートに基づいて漁業者、漁協等の関係者へ質問する面接方式で行われ、関係者の水産資源管理への理解が深いこともあり、滞りなく終わりました。

今回審査を受けたMELの生産段階認証は今年度内の取得を目指しており、県では継続的な支援を行う予定です。

(水産事務所)

MELとMSCについて

- MSC : Marine Stewardship Council
事務局 : Marine Stewardship Council (海洋管理協議会)
設立 : 1997年 本部 : イギリス (ロンドン)
活動目的 : 「海のエコラベル」認証制度を通じて、持続可能な漁業の普及に向けた取組を行う。
- MEL : Marine Eco-Label
事務局 : (一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会
設立 : 2016年 本部 : 日本
活動目的 : 「MEL ジャパン」認証制度を通じて、水産資源の持続的利用や生態系の保全を図るための資源管理活動を推進する。



平成30年初漁（沼之内魚市場）について

〔1月9日（火）〕

いわき市漁協沼之内魚市場にて今年の初水揚げがありました。あいにくの悪天候のため、出漁船は勿来支所の底びき網船8隻のみでしたが、マダコやヒラメ、カレイなど約2トンが水揚げされました。

入札前に、いわき市漁協の江川組合長から挨拶があり、今年は試験操業をより前進させたいとの意気込みが述べられ、仲買人や選別作業に来た漁業関係者に対し、みかんが振る舞われました。



（初入札の様子）



（入札されたマダコ）

漁獲量は、海上が時化模様だったこともあり少な目でしたが、大型のヒラメが多数水揚げされました。単価は年末に高騰したヒラメで、最高値の3,000円/kgが付きましたが、全体としては11月並みの単価に落ち着きました。

翌日の10日には前日出漁出来なかった底びき網漁船5隻に加え、小型船54隻が約2トンの水揚げしました。釣りではヒラメを、カゴではマダコを水揚げしました。マダコは今期豊漁で、単価も上々です。

（水産事務所）

「平成30年いわき市森林組合林業労働安全衛生講習会」開催

〔1月12日（金）〕

いわき市森林組合主催による林業労働安全衛生講習会が、中央公民館で開催されました。この講習会は、いわき市森林組合が林業労働災害の未然防止のため毎年開催しており、組合職員や作業班、関係事業体など80名が参加しました。

はじめに、主催者の田子代表理事組合長より「平成29年は無事故・無災害で事業を終えることができた。日頃から、一人一人が安全衛生に心掛けた結果であり、引き続き新年も無事故・無災害を継続して欲しい。」との挨拶がありました。



（田子代表理事組合長挨拶）

次に、いわき労働基準監督署安全衛生課後藤課長から「林業労働災害防止対策について」の講話並びに東北電力株式会社いわき営業所佐々木安全主査より「送、配電線付近での伐採作業の留意点について」の講話があり参加者は熱心に聴講され、最後に全員で「ゼロ災でいこう」を唱和し、講習会は終了しました。

林業の作業環境は、現場条件が一様でないため、労働災害の発生頻度が高く、重大事故になる傾向があります。講習会終了後、参加者から「安全作業の重要さを改めて認識した」との声も聞かれ、林業労働災害未然防止への意識の向上が見られました。県においても、安全パトロール等を通じて、労働災害の未然防止に積極的に取り組んでいくこととしています。

（森林林業部）

頑張るいわきの農業関係者 リレーインタビュー！ Vol.1

地元で土と人々のふれあいを大切に、笑顔の輪を広げています。

大和田自然農園 大和田智恵子さん、娘・増田笑さん

すべて手作り！“自然”を生かした体験型農園

智恵子さん：大和田自然農園では、ブルーベリー栽培や水稻を中心に、様々な作物を栽培しています。私たちの農園は、“自然”ありのままの姿を大切にし、農薬・除草剤不使用での栽培、ハウスもピザ焼き体験の石釜も全て手作りにこだわっています。平成28年には、開園15周年を迎え、これまで関わりのあった多く方を招待して記念式典も開催しました。私たちは、こういったつながりを大切にしたいと考えていて、実際に農園に足を運んでいただき、ブルーベリーの摘み取りやピザづくり、芋掘りなど様々な体験を通して、自然を実感していただいたり、地域のつながりが生まれていく場にしたと思っています。



インタビューにご協力いただいた
大和田 智恵子さん（右）と
娘の増田 笑さん（左）

ご主人の大和田 雅夫さんと3人で
協力しながら、農園を運営しています。

子どもの頃からやっぱり、農業が好き

笑さん：小さい頃から、両親の手伝いで農業に慣れ親しんできたので、自然に囲まれて仕事をするのが大好きです。いずれは農業をしたいと考えていたので、約4年前の結婚を機に、事務の仕事辞めて就農しました。農業は、太陽の下で汗を流しながら作業をしたり、天候によってその日の作業を考えたり、屋内での仕事とは違った楽しさがあって、大きなやりがいを感じられます。

SNSを活用して生まれた“つながり”

笑さん：カメラが趣味だったこともあり、FacebookなどのSNSを活用した情報発信に力を入れています。また、SNSの情報網を利用して、作物の収穫等のボランティアを募っています。一般の方で農作業をしてみたいと手を挙げてくださる方は思った以上に多く、夏休み中の子ども達とお母



（収穫したブルーベリーでピザづくり体験！）



さんなど、今年だけで数十名の方に参加していただきました。ボラ

ンティアの方には、好きなタイミングで自由に参加していただき、農業を通してできる新たな“つながり”を大切にしたいと思うんです。



（芋掘り体験）

今後の展望は…身近で、地域の活力となる農園を

智恵子さん：今後は、規模を拡大していくというより、ありのままの自然をみなさんに体験していただく、人と人とのつながりを広げていったり、身近で自然体の農園を目指したいと思っています。娘と思い描いているのは、手作りの農園カフェを開くことです。自然あふれる美味しいものを食べながら、よりみなさんと交流を広げ、地域の活力にもなるような場をつくるのが夢です。



(農園を通じたたくさんのつながりを大切に)

農業に男女は関係ない。女性として、おしゃれも農業も楽しむ

笑さん：平成28年から、ふくしま農業女子ネットワークに入会していますが、いわきには女性農業者が少ないように感じています。私は、農作業で力仕事もトラクターの運転もしますし、農業に男女は関係ないと思っています。むしろ、これからの農業には、女性ならではの新しい視点やコミュニティが必要になってくると思います。おしゃれも農業も楽しみながら、互いに共感し、協力しあえるような女性のみなさんが、いわきにも増えていくことを願っています。



大和田自然農園で開催された「Fukuがあるアグリガーデン」にて、ふくしま農業女子ネットワーク会員のみなさん

大和田自然農園

【ブルーベリー摘み取り・ピザづくり体験（土日限定・要予約）】

7月中旬～8月

この時期に、SNSで農作業ボランティアも募集します。

【お問い合わせ】

TEL：0246-36-2591 Mail：oowada.nf@gmail.com

所在地：いわき市好間町北好間字山崎 44



各種商品も販売中！

左から、甘酒「久保姫の舞」、「さくさくキャンディ」、好間町久保地区のコシヒカリ「久保姫の舞」、「ブルーベリードリンク」



↑ Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/berryfarmiwaki/>
→ Instagram : <https://www.instagram.com/oowada.nf/>

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成29年12月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成29年12月の農林畜産物モニタリングでは、検査した10品目26検体すべてにおいて放射性セシウムは基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。

（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

ダイコン 1、ハクサイ 1、ギンナン 1、ネギ 1、シュンギク（施設）1、イチゴ（施設）1、トマト（施設）1、葉ネギ（施設）1、菌床しいたけ（施設）5、菌床なめこ（施設）4、牛肉 3、原乳 4
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（12月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る※）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は平成29年9月11日に該当生産者に限り出荷制限解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成29年12月の水産物モニタリング検査では、826検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合は、平成29年12月には99.2%となっています。12月31日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の10種類になっています。

（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ビノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

平成29年12月31日現在

トピック

全国植樹祭テーマソングが決定しました！

平成30年6月10日（日）に開催される第69回全国植樹祭ふくしま2018大会のテーマソング「福ある島」が昨年11月に発表されました。

福島県にゆかりのあるボーカルグループ「GReeeeN」が制作した「福ある島」はふるさと福島への想いがあふれた楽曲で、現在、YouTubeにshort ver.がアップされています。

また、いわき合同庁舎においても楽曲の放送を行っていますので、ぜひお立ち寄りください（毎週水・金曜日正午より）。

「福ある島」（short ver.）のYouTube動画はこちら

→https://www.youtube.com/watch?v=0C2rA8k66_o

「福ある島」の歌詞はこちら

→<https://www.uta-net.com/song/240078>



キビタン
（植樹祭バージョン）

第47回全国林業後継者大会 一般参加者募集中！

6月9日（土）にいわき市で開催される「第47回全国林業後継者大会」の一般参加者を募集しています。当大会は、翌日10日に南相馬市で開催される「第69回全国植樹祭」の関連行事で、林業振興や若手林業者育成を目的に、林業関係者による活動発表やパネルディスカッション等が行われます。入場無料で、参加者には記念品の贈呈もありますので、下記によりぜひお申し込みください。

- 日 時：平成30年6月9日（土）13：30～16：30
- 会 場：いわきアリオス 大ホール
- 主 催：福島県林研グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会、いわき市、福島県

林業後継者だけでなく、林業に関心のある方・どなたでも参加できます！



第47回 全国林業後継者大会 2018福島大会 in いわき

6/9(土)
2018年
入場無料

会場 いわき芸術文化交流館アリオス
大ホール
〒970-8026 福島県いわき市平字三崎1-6
時間 13:30～16:30

一般参加者募集 100名様

主催 福島県林研グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会、いわき市、福島県
後援 19977、一般社団法人全国林業振興協会、公益財団法人日本林業振興会
大会運営 第47回全国林業後継者大会福島大会実行委員会
お問い合わせ 参加の申し込み 第47回全国林業後継者大会福島大会実行委員会事務局
(福島県林業振興課)
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
(西庁舎6階)
TEL 024-521-7426 FAX 024-521-7908

お問い合わせ 参加の申し込み
第47回全国林業後継者大会福島大会実行委員会事務局
(福島県林業振興課)
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号 西庁舎6階
TEL 024-521-7426 FAX 024-521-7908

☆参加のお申し込みについて☆

締め切り
2月28日（水）

申し込み方法
チラシ裏面の申込書にご記入の上、持参、郵送又はFAXでお送りください。

あて先・お問い合わせ
第47回全国林業後継者大会
福島県実行委員会 事務局
(福島県林業振興課)

〒960-8670
福島県福島市杉妻町2番16号
(西庁舎6階)

TEL：024-521-7426
FAX：024-521-7908

チラシは、大会ホームページ（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/47rinkoukeisya/>）からダウンロードしていただくか、いわき市林務課（市役所本庁舎4階）、県いわき農林事務所森林林業部（いわき合同庁舎3階）でも入手できます。

イベント情報

「新規栽培セミナー いちご・ねぎ・なし」 受講者募集中!

【いちご】日 時：平成30年2月 6日(火)

13:30~16:00

場 所：JA 福島さくら夏井支店

【ねぎ】日 時：平成30年2月 6日(火)

9:30~12:00

場 所：JA 福島さくら夏井支店

【なし】日 時：平成30年2月 16日(金)

13:30~16:00

場 所：上平窪集会所

主 催：新たなふくしまの未来を拓く
園芸振興いわき地方推進会議

「いちご」「ねぎ」「なし」の栽培に興味をお持ちの方を対象に、新規栽培セミナーを実施します。各品目の栽培技術から販売状況、各団体の営農支援まで学べる内容となっています。皆様の農業への興味をカタチにしていきませんか?

お問い合わせ

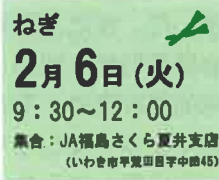
いわき農林事務所 農業振興普及部

TEL: 0246-24-6160

新規栽培セミナー



いちご
2月6日(火)
13:30~16:00
集合: JA福島さくら夏井支店
(いわき市平栗田字中園45)



ねぎ
2月6日(火)
9:30~12:00
集合: JA福島さくら夏井支店
(いわき市平栗田字中園45)



なし
2月16日(金)
13:30~16:00
集合: 上平窪集会所
(いわき市上平窪野道88-2)

平栗田字中園45

上平窪野道88-2

新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議 事務局: 福島県いわき農林事務所
TEL: 0246-24-6160, FAX: 0246-24-6196, Email: shinkouhukyu.ato7@pref.fukushima.lg.jp

新規栽培セミナー申込書 (※記入: 申込者(氏名) 申込日: 平成30年2月15日 申込先: 福島県いわき農林事務所)

品目	参加人数	申込金額	申込日	申込者	電話番号
いちご					
ねぎ					
なし					

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します!

歯切れの良い大根に柚子がマッチした「長久保の柚子大根」は、爽やかな香りが特長で、おなじみの「しそ巻き」に加え定番になっています。さらに、新商品「おこさん」(ピクルス、漬物、各8種)は、「漬物屋がつくるピクルス」として、だしなどで和のテイストを加えました。ピクルスはいわき産とまと「フラガール」などの野菜・きのこを中心に、漬物には「柚子大根」も加わり、食べきりサイズで、贈答用にもご自宅用にもおすすめです。ネット販売や、電話注文も受け付けますので、是非お問い合わせください。



長久保の 柚子大根

内容量: 150g×3
販売価格: 1,080円(税込)



箱は江戸時代のお弁当イメージ

おこさん

ピクルス8種・漬物8種
内容量: 70~100g
販売価格: 各432円(税込)



- 右:ピクルス
いちご、アプリコット、とまと、しいたけ、なめこ、たまごなど
- 左:漬物
胡瓜、大根、あんず、もも、梅干など

お問い合わせ

有限会社 長久保食品

- いわき市好間町中好間字鍛冶内28-2
- TEL: 0246-36-3999
- mail: info@nagakubo.net
- Web: http://www.nagakubo.net/

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jka.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

第三者認証GAP取得に向けた研修会・相談会を開催しました

1月10日(水)に、JA福島さくらいわき地区本部にて、「第3回第三者認証GAP取得に向けた研修会・相談会」を開催し、22名の生産者および関係機関・団体が参加しました。

研修会では、田村地域のトマト生産部会事務局を担当するJA福島さくらむら地区本部の新田耕弘氏から、同部会のJGAP団体認証に向けた取組事例について講演をいただきました。また、農林事務所より、水稲での第三者認証GAP取得に向けて必要な取組を説明しました。

個別相談会では、認証までの具体的な計画や、不安に感じている点について相談を受け、各専門担当職員がマンツーマンで対応しました。参加者からは「団体認証に向けて必要なことがわかった」「水稲での認証取得に取り組んでみたい」との声がありました。

今年も農林事務所一丸となって、第三者認証GAP取得支援や推進活動を進めてまいります。



(研修の様子)

2月はGAP推進月間です。

GAPに関する様々なイベントを実施します。

←例→

日程

2月6日 GAPセミナー(南相馬市)

2月14日 第4回GAPセミナーin東北(福島市)

日程・会場など詳細は、福島県ホームページ

https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/

推進大会

GAP推進月間

GAPセミナー

PR活動
(メディア・通達)

いわき農林事務所での取組

第4回「おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン」におけるPR

- 日 時：平成30年2月4日(日) 10:00～
- 場 所：マルト湯長谷店(いわき市常磐下湯長谷町道下10)
- 主 催：県いわき農林事務所

消費者へ県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただき、風評払拭・消費拡大を図るためのキャンペーンです。テーマは「いちご」と「ネギ」で、今回はさらにGAP推進月間の取組としてGAPの説明も行います。JGAPを取得したあかい菜園(株)のトマトも提供しますので、ぜひお越しください！

「第三者認証GAP取得に向けた個別相談会」の開催

- 日 時：平成30年2月7日(水) 13:30～15:30
- 場 所：県いわき合同庁舎3階 第2会議室

第三者認証 GAP 取得に向けた、普及指導員による個別相談会です。参加ご希望の方は、いわき農林事務所農業振興普及部(TEL:0246-24-6161)までお問い合わせください。

「平成29年度第3回いわき地方GAP推進協議会」の開催

- 日 時：平成30年2月中旬以降 予定
- 場 所：県いわき合同庁舎内

市場、小売、関係団体、関係機関が一体となり、生産から消費までの一連の流れにおけるGAPの需要拡大、理解促進を図ります。

いわき地方振興局公式 SNS

「Iwaki hula kibitan (いわきフラキビタン)」による情報発信を行っています！

福島県いわき市の魅力を県内外に広く発信し、皆さんに『いわきファン』になっていただけるよう、SNSを活用した情報発信を行っています。

Facebook と Instagram で、いわき市の素敵な風景や美味しい食べ物、いわき管内の旬な農林水産物の情報などを紹介していますので、ぜひご覧ください。

皆さんのフォローを
お待ちしております♪



いわき地方振興局 キャラクター 「フラキビタン」

“フラガールが生まれた街” いわきを PR するため、フラの衣装をまとった「フラキビタン」として、いわき地方を中心に県内外で活動中です！

Face book : <https://www.facebook.com/iwaki.hula.kibitan/>

Instagram : https://www.instagram.com/iwaki_hula_kibitan/

または、**いわきフラキビタン**で検索！

いわき地方振興局 からのお知らせ

ふくしま・いわきフェスタ in 日本橋 開催！

東京都日本橋の福島県アンテナショップ「MIDETTE」において、いわきの魅力盛りだくさんのイベントを開催します。いわきの“旬”の産品販売や美味しい食べ物の振る舞いのほか、復旧・復興が進むいわき市の“今”を知ってもらう展示やご当地キャラによる観光 PR などを予定しています。

■日 時 平成30年3月 9日(金) 11:00~19:45
3月10日(土) 11:00~17:45
3月11日(日) 11:00~17:45

■会 場 日本橋ふくしま館 MIDETTE
■主 催 福島県(いわき地方振興局)



編集後記

今月の編集も終了し、「あけましておめでとうございます。」と思ったら、1月も終わろうとしています。月日が経つのは本当に早いですね。

目次のランタンキュラスの花言葉は、「とても魅力的」だそうです。今年は、より“魅力的な”ニュースになるよう、農業をはじめとした様々な分野の方へのインタビューを頑張りたいと思います。

先日はいわきにも雪が積もり、インフルエンザも流行する時期ですので、皆様身体にはお気をつけてお過ごしください。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース **検索**

■■■■■県いわき農林事務所の取組■■■■■

第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

2月4日 (日)

マルト湯長谷店において、消費者へ県産農林産物の安全性や美味しさをPRするため、いわき市産いちご「ふくはるか」、ねぎドレッシング*1・いちごドレッシング*2をかけたいわき市産「ベビーリーフ」の試食及びアンケートを実施しました。アンケート協力者には、いわき市産長ねぎ及びJGAP認証トマトをプレゼントしました。

試食いただいた方には、いちごもドレッシングもベビーリーフも美味しいと好評でした。

アンケート調査の結果、県産農林水産物の購入意欲に関して、「購入してもよい・積極的に購入したい」が全体の約94%を占めました。

※1 福島さくら農業協同組合「ねぎドレッシング」

※2 田人観光いちご園（（農）平石野菜生産組合）「あきひめドレッシング」



豊かなむらづくり顕彰事業「貝泊コイコイ倶楽部」が受賞〔2月19日（月）〕

福島市の杉妻会館において、平成29年度豊かなむらづくり顕彰事業優秀団体表彰式が行われ、県内の6つの団体に表彰状が授与されました。

36回目を迎える本顕彰事業は、福島県と福島民友新聞社が主催し、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収め、本県の農業・農村の発展に寄与した団体等を表彰するものです。

今回、管内からは、いわき市田人町貝泊地区を中心に活動する「貝泊コイコイ倶楽部」が受賞しました。

同倶楽部は、平成14年に貝泊地区の住民により地元の小中学校を存続させることを目的として設立され、以降全国各地から1ターン移住者を数多く受け入れてきました。

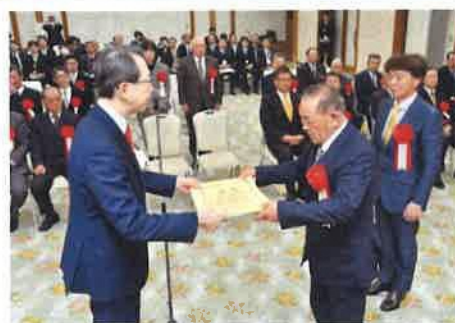


（知事との集合写真）

震災直後は、住民の県外移転が相次ぎましたが、現在も、遊休農地を活かした農業体験イベントなど都市部住民を呼び込むための交流事業を積極的に行っており、この度、その取組が高く評価され、同顕彰事業の受賞とあわせて「豊かなむらづくり全国表彰」への推薦も決まりました。

今回の受賞を機に、農山村振興におけるモデルとしての益々の活躍が期待されます。

（企画部）



（賞状授与の様子）

写真：福島民友新聞社提供

高校生レシピコンテスト実食キャンペーン

〔2月10日（土）～18日（日）〕

いわき産トマトを使った第1回高校生レシピコンテストのグランプリ料理が2月10日から18日まで期間限定で、いわき市常磐上湯長谷町のいわきF Cパーク「RED&BLUE CAFÉ」と同市四倉町のワンダーファーム「森のキッチン」で提供されました。

提供されたのは、同コンテストでグランプリに選ばれた、入澤歩美さん（磐城第一高校2年）が考案した「トマトとマッシュルームの炒め物」（料理部門）と、北郷麗奈さん、宮川

流果さん（いずれも勿来高校：2年）が作った「カラフルトマトのレアチーズ」（スイーツ部門）。

「トマトとマッシュルームの炒め物」は、トマトの甘さが強調されつつ他の食材の邪魔をせず、それぞれの食材を生かしたシンプルな美味しさ。「カラフルトマトのレアチーズ」は、トマトとレアチーズの互いの美味しさが見事に組み合わせられ、女性が喜びそうな可愛い仕上がりでした。

（企画部）



（ワンダーファーム）

この日はほぼ完売状態でした



（RED&BLUE CAFÉ）

両作品が一度に楽しめるワンプレートで提供されました

いわき市漁業協同組合 親子漁業体験ツアー

〔2月3日(土)〕

いわき市漁業協同組合が主催する親子漁業体験ツアーが開催されました。ツアーには市内の親子32名が参加し、小名浜地区の漁網工場と四倉地区の船曳網漁業の操業を見学しました。

漁網工場では、沖合漁業で使用する旋網を間近で見学しました。案内して下さった職員の話では、新品を1式仕立てるのに1億円以上かかるとのことで、参加者は金額と網の大きさ、職人の作業の早さに驚いていました。



(漁業者による漁法の説明)

四倉漁港では漁船(見学船)に分乗し、船曳網の操業の様子を海上で見学しました。当日は少しうねりが強く、船酔いする方も見られましたが、漁師から操業方法の説明を聞きながら見学したため、漁法に関する理解が深まったとの感想が聞かれました。子ども達は獲れたシラウオなどに直に触れ大変喜んでいました。



(漁業見学の様子)

いわき市漁業協同組合では、震災以降、この漁業体験ツアーを年2回開催しており、参加者からは大変好評です。こうした取組により、地元住民の漁業への理解が醸成され、風評払拭や魚食普及に繋がることを期待しています。

(水産事務所)

サンシャインフラワーセミナー開催

〔2月9日(金)・10日(土)〕

切り花の栽培技術や産地育成に関するセミナーをいわき市中央台公民館及び現地ほ場にて開催し、県内各地から65名が参加しました。

初日の講演会では、トルコギキョウ及びりんどう、宿根かすみ草をテーマに、水耕栽培や周年生産、新産地育成などをポイントに県内外の講師から講演をいただきました。さらに、当事務所から「川前のりんどう産地育成」「宿根かすみ草の周年生産」について事例を紹介し



トルコギキョウの講演を行う
農研機構・福田直子先生

ました。翌日の現地見学会

は天候に恵まれ、好間地区の「トルコギキョウ水耕栽培」、小川地区の「宿根かすみ草の周年生産」の各ほ場を訪問し、多くの参加者が現地の生産物、展示サンプルなどに真剣な眼差しを向けており、関心の高さを伺うことができました。今後は、栽培志向者への作付促進、栽培者への技術支援を進め、当地域の花き生産に弾みを付けていきたいと考えています。

(農業振興普及部)



現地説明を行う
宿根かすみ草農家の菅家秋男氏

シャーベット氷製造器のデモ試験実施

〔1月31日（水）〕

シャーベット氷製造装置のデモ試験が相馬双葉漁業協同組合で実施されました。この装置は県産水産物の競争力強化と販路の拡大を目的に、今年度県が福島県漁業協同組合連合会に委託した「水産物の高付加価値化技術実証試験」の一環として導入されたものです。

シャーベット氷は、海水濃度を1～2％に調整して生成されるシャーベット状態で、通常使用される角氷と比べて、水産物を急速かつ均一に冷やす特徴があります。

デモ試験には、県内の漁業関係者や行政関係者など約50名が参加し、メーカー担当者から氷の特徴の説明を受けながら、シャーベット氷の製氷の様子を見学しました。出席した漁業関係者の多くがシャーベット氷に関心を持っており、メーカー担当者には多くの質問が寄せられました。

デモ機の設置は3月中旬までの予定で、その間、相双・いわき地区の沿岸漁業者や産地流通業者にシャーベット氷を試験的に提供し、氷の使い勝手や、水産物の鮮度保持効果について評価していただくこととしています。

（水産事務所）



（デモ試験の様子）

いわき地域産業6次化ネットワーク交流会開催

〔2月1日（木）〕

県いわき合同庁舎において「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催しました。この交流会は、地域産業6次化をさらに推進することを目的に、講演会と研修会の2部構成で開催し、市内の事業者や関係者約40名が参加しました。

第1部では、ブランドデザイナーとして女性目線を活かした商品づくりで数多くの実績を持つ株式会社Ruderal代表取締役小池富子氏に「売れる商品の作り方～『女性目線』でつくるパッケージデザインとは～」と題して、売れる商品の作り方やパッケージデザインの秘訣についての講演を、また、農林産物の保存と加工の技術で定評のある有限会社みずほフーズ代表取締役古関弘子氏に、加工技術に関する講習として、自身の豊富な経験に基づく講話をしていただきました。古関氏には講話後、別室にて個別相談会をしていただき、相談を希望した3組の事業者に対して、加工技術に関するアドバイスなどをしていただきました。



（小池富子氏）



（古関弘子氏）

第2部では、市保健所と当事務所による食品表示法に関する研修を行いました。

講演会のアンケート結果では、参加者から「目からウロコが落ちた」とか「受講できなかった人にも是非聞いてほしい」等の声があり、研修会のアンケート結果では「制度の改正点を聞ける機会が少ないので、聞けてよかった」等いずれも好評のうちに終了しました。

（企画部）

市内2箇所の幼稚園で食育活動実施

〔1月30日(火)・31日(水)〕

市内の幼稚園2箇所で、「ふくしま食育実践サポーター」の高萩多香野氏による食育活動が行われました。

1月30日には、かしま幼稚園で、未就園児や在園児の保護者・保育士15名を対象に「食のおはなし会」が実施され、好き嫌いや箸の使い方など、子育て世代が悩みがちな食生活の課題についての講話と個別相談が行われました。

翌日31日には、さかえ幼稚園で、園児による恵方巻きづくり教室が実施され、高萩氏が年長児20名一人一人に作り方を



(かしま幼稚園「食のおはなし会」)



(さかえ幼稚園 恵方巻きづくり)

教えました。その後、他の教室も回り、「よく噛んで食べようね」「自分で作ると美味しいね」などと声をかけながら、一緒に恵方巻きを食べました。参加者には、家庭での食育実践にも繋がるよう、食生活改善に関する資料も配付しました。

県では、地域住民や子どもたちへの食育活動を支援する「ふくしま食育実践サポーター」の派遣を行っておりますので、是非ご活用ください。

(企画部)

建設工事安全推進協議会工事現場安全パトロールを実施！〔1月24日(水)〕

いわき労働基準監督署、いわき農林事務所、いわき森林土木協会及び福島県土地改良建設協会の会員等36名が参加し、工事現場安全パトロールを実施しました。パトロールは2班に分かれ南部と北部2箇所ずつ実施した後に、いわき建設会館に集合し、点検結果をもとに反省検討会を行いました。

反省検討会では、現場毎に指摘事項をとりまとめて発表した後に、労働基準監督署の後藤安全衛生課長と小屋敷労働基準監督官から講評をいただきました。

現場での主な改善点は、「法面保護工における親綱は二点取り以上とする」、「河川内に作業員が転落した場合の救命具を準備する」などがありました。

また、講評の中では「法面上にアンカーを仮置する場合には袋等に入れて固定する」、「道路の路肩では転落災害の恐れがあるので紅白のコーン等を置く」など具体的な改善策を指導されました。

参加者は、自社が施工する現場に反省検討会で出た課題を持ち帰り、現場作業員へ安全衛生管理の徹底と、労働災害の未然防止に向けた意識を高める重要性を再認識しました。

(総務部)



(アンカードリル施工中の状況)



(反省検討会の取りまとめ状況)

折笠明憲氏へ青年農業士認定証交付

〔1月31日(水)〕

郡山ビューホテルアネックスにて平成30年度福島県青年農業士認定証交付式が開催され、いわき市遠野町で水稻とネギ等の複合経営を実践されている折笠明憲氏へ、県農林水産部佐藤技監より青年農業士の認定証が交付されました。

青年農業士は、次世代の農業担い手として活躍が期待されている若手農業者を県が認定する制度です。折笠氏はいわき農業青年クラブで企画運営の中心的な役割を果たしているほか、地域の高齢化や鳥獣被害が拡大するなか、狩猟免許を取得するなど中山間地域における重要な担い手となっております。

晴れて青年農業士に認定された折笠氏は、「これから地域の担い手として貢献できるように取り組んでいきたい」と今後の農業生産への希望や展望を語っていました。（農業振興普及部）



（中央：認定証を受けた折笠氏）

平成29年度ステップアップ講座経営セミナー開催〔1月30日(火)〕

認定農業者等27名を対象にいわき市中央公民館で経営セミナーを開催しました。

セミナーでは、さくら中央税理士法人の木幡仁一先生を講師に、平成29年所得確定申告の注意点や、税制改正の動向、法人化に向けた検討事項などの講義と、福島県農業共済組合による農業経営収入保険制度の説明が行われました。

受講者から、「勉強になった」との声とともに、簿記研修等の要望もありました。今後、意見をもとにより効果的なセミナーを開催してまいります。（農業振興普及部）



（木幡税理士による講義）

管内の若手農業者が農村青年会議で発表！

〔2月2日(金)〕

三春町の県環境創造センター（コミュタン福島）で、県内各地の若手農業者が取り組みや意見を述べる「農村青年会議」が開催され、いわき農業青年クラブ連絡協議会に所属する中村彰宏さん（渡辺町、原木椎茸等栽培）と、根本大我さん（平平窪、梨栽培）がいわき地区の代表者として発表を行いました。

中村さんは、原発事故の影響により減少した売上げを取り戻そうと、新たに6次化や販売価格の見直しに取り組んだ事例について発表し、根本さんは、就農のいきさつや今年度ベトナムへの梨輸出に取り組んだ経験と、今後の目標について発表しました。

発表の結果、中村さんは最優秀賞・知事賞に、根本さんは優秀賞・農業振興公社理事賞に輝き、11月に宮城県で開催される東北大会の県代表となりました。2人は、「東北大会でも上位に輝けるよう発表内容に磨きをかけていきたい。」と今後の抱負を語っていました。（農業振興普及部）



（発表の様子）

左：中村さん 右：根本さん

有害鳥獣被害防止対策モデル集落研修会を開催 〔1月26日(金)〕

三和町渡戸高野多目的集会所にてモデル集落では第2回となる「平成29年度いわき地方有害鳥獣被害防止対策研修会」を開催しました。農業者及び関係者22名が出席し、イノシシの被害対策について学びました。



(映像でイノシシの生態を知る)



(ワナの安全な使用方法を聞く)

今回の研修では、集落ぐるみの鳥獣対策で全国的に有名な宇都宮市「逆面エコ・アグリ」から役員の鈴木文雄氏を講師に招き、イノシシの捕獲に関する箱ワナ及びくくりワナの設置方法について映像や実演を交えての講義・演習が行われ、参加者は興味深く聞いていました。

また、いわき市より「わな免許取得」について情報提供があり、参加者より多数の質問が出るなど、いわき地域のイノシシ被害防止対策への関心の高さが伺えました。(農業振興普及部)

「復興応援 キリン絆プロジェクト」いわきの農業・水産業4団体 新商品発表会及び事業成果報告会 〔1月30日(火)〕

このプロジェクトはキリングroup・日本財団・日本フィランソロピー協会の協働で東北の震災復興に取り組んでいるもので、今回、支援を受けた4団体が市内のワンダーファームにおいて、自ら開発した新商品(写真)の発表を行いました。

4団体から商品開発に当たった工夫や苦労など様々な話が披露され、これからの県内外への商品展開に広がりを感じる報告会となりました。

引き続き、第2部として一般参加者20名も含む試食会「Eat Meeting」が行われ、参加者全員が笑顔で新商品を味わい会場は和やかな雰囲気になりました。(企画部)



いわき市水産物6次化推進協議会
「セブなメヒカリ」



いわき社中グループ
出汁入り鍋用干物「鍋干物」



いわき水産商品開発協議会
「いわき郷土料理あんこう鍋どぶ汁」



F's Kitchen
ドレッシング、スープ、ジャム等
農産物加工品多種

頑張るいわきの農業関係者 リレーインタビュー！ Vol.2

地域のつながりを大切に、“楽しく” 農業をしています。

小泉園 小泉美砂子さん、小泉昌男さん・彰子さん

前回取材にご協力いただいた大和田智恵子さん・増田笑さんから紹介のあったいわき市常磐の水稲農家・小泉園の皆さんにインタビューしました！

笑顔で楽しく！ 活気あふれる地域の中心的農業者

昌男さん：私たちは、約20haのほ場で稲作を行っており、コシヒカリ、天のつぶ、ミルキークイーン、酒米の山田錦など、様々な品種を生産・販売しています。また、作業受託も請け負っており、十分に対応できるよう設備も備えています。

私が25歳の時に父が他界してから、私が中心となり、母と、結婚してからは妻と3人で、農作業や経理事務を分担しながら取り組んでいます。

美砂子さん：田植えや稲刈りの時期には親戚や地域の方々からの協力もいただきます。毎年、春に集まっては「今年もよろしくね」と声を掛け合いながら、楽しく農業をしています。

昌男さん：私たちはとにかく「楽しくやっていこう」という思いで取り組んでいるんです。地域の方々と笑顔の絶えない農業を続けていけたらと思っています。



小泉昌男さん（38）・彰子さん夫妻（37）

昌男さん（青年農業者）、妻の彰子さん、母・美砂子さん（指導農業者）の3人で協力して取り組んでいます。

今回は、昌男さんと美砂子さんにお話を伺いました。

農業の魅力を次の世代へ

美砂子さん：水稻の魅力といえば、育苗がうまくいった喜び、きれいに田植えを終えた喜び、なんといっても収穫の喜びです。一年を通して季節を感じながら、それぞれの段階を終えるたびに感じる達成感には本当にかけがえのないものです。農業は天候に影響されるので苦労することもあります。太陽への感謝の気持ちを忘れずに作業をしているととてもやりがいを感じられます。

昌男さん：私たちには3人の幼い子どもがいるのですが、時々機械と一緒に乗ったり、農作業を体験させたりしています。やはり、子ども達にも「農業っていいな」「自分も将来農業をやりたいな」と感じてもらいたいのので、農業の魅力を伝えられるよう意識しています。

美砂子さん：孫たちと外食に行くと、出てきたご飯を見て「これ、ミルキークイーンかな！？」なんて言ってはしゃぐんです。私たちの仕事をよく見て学んでくれているなあと、嬉しくなっていました。



今こそ、若者の新規就農を！

昌男さん：若手の農業者が減っていると聞きますが、農業機械がタッチパネル式になったり、手作業だったものが機械でできるようになったりと、農業は近代化が進んでいます。若者でも作業しやすくなりますし、むしろ今後ますます若い力が必要になってくると思います。

そして、農業をしていると、ベテランの農家さんなど年上の方と関わることが多く、あらゆる面で学ぶ機会がたくさんあります。子ども達にも、地域のいろんな方と触れあいながら、健やかに育って欲しいと願っています。これらのことも含めて、農業には魅力があふれていますから、今後、若い農業者の方がたくさん増えて欲しいですね。

～小泉園のお米・各種加工品 紹介～

写真 上段 : コシヒカリ

下段左 : 太平樓酒造の純米酒「絆」
(天のつば使用)

下段中央: 笑いと「米粉パンケーキミックス粉」
(コシヒカリ使用)

下段右 : ミルキーQueen



太平樓酒造で風評払拭のために製造している純米酒「絆」の原料として、小泉園の天のつばを提供しています。また、笑いと(株式会社たふいあ)の米粉商品としては、パンケーキミックスの他にも、米粉麺や米粉カレーうどんなど様々な米粉商品の原料として、コシヒカリを提供しています。

笑いと 米粉商品カタログ

箱入り米種セット

あまのこ(白米) 各250円(税別)
 雑穀・中米・玄米(半生種) 各120g(1食分)・食塩無添加
 ゆで時間2〜3分・常溫保存
 (お米は季節により変更のない場合があります)

箱入り米種セット

あまのこ(玄米) 各280円(税別)
 雑穀・中米・玄米(半生種) 各120g(1食分)・食塩無添加
 ゆで時間2〜3分・常溫保存
 (お米は季節により変更のない場合があります)

箱入り米種セット

あまのこ(白米) 各250円(税別)
 雑穀・中米・玄米(半生種) 各120g(1食分)・食塩無添加
 ゆで時間2〜3分・常溫保存
 (お米は季節により変更のない場合があります)

箱入り米種セット

あまのこ(玄米) 各280円(税別)
 雑穀・中米・玄米(半生種) 各120g(1食分)・食塩無添加
 ゆで時間2〜3分・常溫保存
 (お米は季節により変更のない場合があります)

箱入り米種セット

あまのこ(白米) 各250円(税別)
 雑穀・中米・玄米(半生種) 各120g(1食分)・食塩無添加
 ゆで時間2〜3分・常溫保存
 (お米は季節により変更のない場合があります)

箱入り米種セット

あまのこ(玄米) 各280円(税別)
 雑穀・中米・玄米(半生種) 各120g(1食分)・食塩無添加
 ゆで時間2〜3分・常溫保存
 (お米は季節により変更のない場合があります)



お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年1月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年1月の農林畜産物モニタリングでは、検査した10品目20検体すべてにおいて放射性セシウムは基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。

（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

ホウレンソウ（施設）1、イチゴ（施設）1、キウイフルーツ 1、エリンギ（施設）1、原木しいたけ（施設）1、菌床しいたけ（施設）4、菌床うすひらたけ（施設）1、菌床なめこ（施設）1、牛肉 4、原乳 5

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（1月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る※）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は平成29年9月11日に該当生産者に限り出荷制限解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年1月の水産物モニタリング検査では、509検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年1月には99.6%となっています。1月31日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の10種類になっています。

（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ピノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

平成29年12月31日現在

トピック

いわきの農林業の振興に貢献された方々が「いわき市農林業賞」を受賞

2月9日（金）、内郷のクレールコートにおいて、いわき市主催による平成29年度いわき市農林業賞の表彰式が開催されました。

今回は、市の農林業の振興と発展に多大な功績のあった個人・団体の部に、草野 隆氏（黒毛和牛の繁殖等）、農事組合法人天住



伝統野菜フォーラムでは、「食の交流会」として試食コーナーも設けられました

野菜生産組合（ベビーリーフを中心とした水耕栽培）、貢献の部に、特定非営利活動法人いわきオーリーブプロジェクト（耕作放棄地を活用したオーリーブ栽培、6次化商品の開発等）が表彰されました。



（受賞者の皆さん）

また、表彰式の後には、「いわき伝統野菜フォーラム2018」が開催され、参加者はいわきで昔から栽培されてきた伝統野菜と、その食文化について理解を深めました。

イベント情報

ふくしま・いわきフェスタin日本橋

■日 時 平成30年3月 9日(金) 11:00~19:45
3月10日(土) 11:00~17:45
3月11日(日) 11:00~17:45

■会 場 日本橋ふくしま館 MIDETTE
■主 催 福島県（いわき地方振興局）

東京都日本橋の福島県アンテナショップ「MIDETTE」において、いわきの魅力盛りだくさんのイベントを開催します。いわきの”旬”の産品販売や美味しい食べ物の振る舞いのほか、復旧・復興が進むいわき市の”今”を知ってもらう展示やご当地キャラによる観光PRなどを予定しています。

締め切り間近！

第47回全国林業後継者大会 一般参加者募集！

6月9日（土）にいわき市で開催される「第47回全国林業後継者大会」の一般参加者を募集しています。当大会は、翌日10日に南相馬市で開催される「第69回全国植樹祭」の関連行事で、林業振興や若手林業者育成を目的に、林業関係者による活動発表やパネルディスカッション等が行われます。入場無料で、参加者には記念品の贈呈もありますので、是非お申し込みください。

■日 時：平成30年6月9日（土）13：30～16：30
■会 場：いわきアリオス 大ホール
■主 催：福島県林研グループ連絡協議会、全国林業研究
グループ連絡協議会、いわき市、福島県

林業後継者だけでなく、林業に関心のある方・どなたでも参加できます！



第47回 全国林業後継者大会
2018福島大会 in いわき

6/9(土)

会場 いわき芸術文化交流館アリオス
大ホール
〒970-8026 福島県いわき市平ア三興1-6
時間 13:30～16:30

一般參加者要集 **100** 名樓

[illegible]

☆参加のお申し込みについて☆

締め切り

2月28日(水)

(消印有効)

申し込み方法

左のチラシを大会ホームページ又はいわき市林務課（いわき市役所本庁舎4階）又は県いわき農林事務所森林林業部（いわき合同庁舎3階）から入手し、裏面の申込書にご記入の上、持参、郵送又はFAXでお送りください。

あて先・お問い合わせ

第47回全国林業後継者大会福島県実行委員会事務局（福島県林業振興課）

〒960-8670

福島県福島市杉妻町2番16号（西庁舎6階）

TEL : 024-521-7426

FAX : 024-521-7908

GAP 認証取得事例紹介～磐栄アグリカルチャー株式会社～

昨年の9月24日にJGAPを取得した磐栄アグリカルチャー株式会社の担当の方に、JGAP 認証までの道のりについてお話を伺いました。

人工光、水耕、無農薬栽培による植物工場でのフリルレタスの栽培を行っており、その栽培方法と、農産物としての安全性をPRするためにJGAPの導入を決断。認証取得を通じて、作業員14名の農産物の安全性に対する意識が高まり、作業員自身が積極的に意見を述べるようになったことが利点とのこと。

担当の方からは「GAPを勉強することにより、今まであたりまえとしてきた農業安全基準はあやふやであったことに気づいた。『自分の農産物は安全であること』を証明するためには、GAPの取得は必要。第三者認証GAPによって、農業者なら誰でも行うべきことを行っていると第三者に分かりやすく示すことができる。福島県いわき市の安全な農林水産物を発信するため、ぜひ多くの生産者に取り組んでいただきたい。」と、認証取得を検討している生産者へメッセージをいただきました。



播種日、移植日等の作業記録の掲示



従業員の健康状態チェックによる
衛生面の確保



シート被覆と保管場所の指定による交差
汚染防止

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します！

創業から100年以上納豆をつくり続ける(有)ナコソフーズでは、素材にとことんこだわった「経木納豆」を販売しています。「経木(きょうぎ)」とは、木を薄く削った包装材のことで、通気性と香りに優れ、食材を格段に美味しく保ちます。「勿来秘伝経木納豆」は、厳選された大粒大豆本来の味を松の経木の香りが引き立て、こだわりの一品です。また、黒豆の納豆「勿来黒豆経木納豆」は、そのままでも美味しく、はちみつをかけるとデザート感覚で楽しめます。これらの商品は、ワンダーファームで購入でき、週末には社長自ら試食提供していることもあります。是非足を運んでみてください。



勿来秘伝経木納豆
内容量 100g
販売価格 380円(税別)
大豆のなかでも最高峰の品種「秘伝」を使用した大粒の納豆を、松の経木で直接包みました。



勿来黒豆経木納豆
内容量 100g
販売価格 380円(税別)
豊かな風味ととしが特長の大粒黒豆を松の経木で包み、熟成をかけて熟成させました。



わさび風味のたれ
内容量 180ml
販売価格 250円(税別)
納豆にはもちろん、豆腐やサラダなどにも合う万能な「わさび風味のたれ」も大好評！



有限会社 ナコソフーズ

●いわき市勿来町窪田町通4-142 ●TEL.0246-64-7579
●mail:info@nakosofoods.com ●Web:http://nakosofoods.com

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jka.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」をご紹介します！

「Iwaki Laiki」（いわきライキ）は、全国有数の日照時間を誇るいわき市でミネラル豊富な肥沃な土地と澄んだ水によって育まれたブランド米です。いわき産米のイメージを回復させることを目的に平成26年10月から販売を開始しました。いわき市ではそのPRに力を入れており、県としても、サポート事業など様々な面でその取組を支援し、連携して取り組んでおります。



☆代表的な取組☆

「Iwaki Laiki」米粉フェスタ 2017（サポート事業活用）

平成29年9月30日～10月1日、いわき産米のイメージ回復・消費拡大・風評払拭を目的に、小名浜港アクアマリンパークで美味しい米粉料理を楽しめるイベントが行われました。市内外から、4万5千人もの来場者が集まりました。



「Iwaki Laiki」米粉料理コンテスト（サポート事業活用）

「Iwaki Laiki」の米粉等を活用したオリジナリティあふれる米粉等料理のコンテストが開催されます。平成30年2月1日～2月28日の期間に応募があった中から、書類審査で選ばれた7作品について、3月15日に調理審査が行われます。

「フリーズドライご飯」の開発

サンフレックス永谷園、JA 福島さくら、いわき市の三者共同で、「Iwaki Laiki」を使った「トマトピラフ味」のフリーズドライご飯を開発し、平成30年2月9日から市内のJA 直売所4箇所で販売を開始しました。いわき産農産物を使った防災非常食として、今後の消費拡大が期待されます。



編集後記

9日間限定の美食キャンペーン（3ページ参照）で、レシピコンテストの優勝作品を味わってきました。作品は本当に美味しくて、ワンダーファーム森のキッチンのビュッフェでは、大皿に盛られた作品がどんどんなくなる様子がよく分かりました。いわきFC パーク RED & BLUE CAFE では、私の他にも注文が複数見られ、店長さんも「作って高校生にうらで働いてもらいたいくらい」と大絶賛していました。

高校生のこれからの可能性は無限大！今後も、いわきの美味しい食材を使って様々な料理にチャレンジしていった欲しいですね。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース 